

透析医の腎移植に対する意識のアンケート調査

吉矢邦彦 赤塚東司雄 荒川俊雄 和泉雅章 今井信行 江尻一成 大山敦嗣
喜田智幸 関田憲一 竹岡浩也 永井博之 野々口博史 藤井直彦 藤森 明
吉本明弘 依藤良一 市川靖二

兵庫県透析医学会学術統計委員会

key words : 透析医, 腎移植, アンケート調査

要 旨

兵庫県透析医学会の会員 166 施設に対して腎移植に対する意識のアンケートを施行した。透析患者 6,996 人を管理している 82 施設（回収率 49%）から回答が得られた。腎移植を「積極的に説明している」あるいは「積極的に勧めている」施設は 26% であった。移植を勧める年齢は 60 歳までであった。60~70% の施設では、「質問を受けたら」「年齢により」「合併症により」などケースバイケースで腎移植の説明をしており、透析施設での移植の取り組みの一般的な現状を示していると思われる。移植治療の発展普及のために、透析スタッフは移植治療に対して知識や情報を習得し、適切な時期に繰り返し腎移植に関する情報提供をすることが重要である。また移植スタッフは、透析スタッフや患者に教育・啓発を行うことが必要である。透析スタッフと移植スタッフの密な関係の構築が望まれる。

緒 言

本邦では、腎移植治療が進まないのが現状であるが、平成 22 年に改正臓器移植法案が施行され移植医療に対する意識が高まってきている。平成 22 年は全国で 1,481 例の腎移植が行われ、10 年前と比べると 2 倍以上の増加となった。兵庫県では平成 22 年は 51 例の腎移植が施行された¹⁾。このような状況で、兵庫県内の現状を把握する目的で透析医の腎移植に対する意識の

アンケート調査を施行した。

1 方法と対象

兵庫県透析医学会の会員 166 施設に対して腎移植に対する意識についてのアンケート調査を施行した。方法は、アンケートを無記名方式で郵送にて施行した。期間は平成 23 年 9 月より 10 月であり、[図 1](#) にアンケート調査の内容を示す。

2 結 果

透析患者 6,996 人を管理している 82 施設の透析医の回答が得られ、回収率は 49% であった。回答者の専門領域は、内科 75%、泌尿器科 12%、外科 11%、記載無し 2% であった。施設の規模は、クリニック 54%、総合病院 36%、専門病院 7%、記載無し 3% であった。管理している透析患者 6,996 人の内訳は、血液透析が 82 施設の 6,793 人であり、1 施設あたり平均 85 ± 40 人（以下数値は平均 \pm SD）、腹膜透析患者が 24 施設の 203 人であり、1 施設あたり平均 9 ± 7 人であった。各施設の年間新規の透析導入患者数は、平均 14 ± 13 人であり、合計 1,071 人であった。

[図 2](#) に移植の説明・説明資料に対する回答を示す。新規導入患者や他施設で導入され紹介された患者への腎移植の説明は、「説明することが多い」が 26%、「ケースバイケースで説明する」は 59%、「説明しない」は 15% であった。「ケースバイケース」の内訳は

(施設の現状を伺います)

★先生の御専門に○をつけて下さい 内科系 外科系 泌尿器科系 その他 ()

★所属施設の規模に○をつけて下さい

総合病院 (ベッド数 床), 専門病院 (ベッド数 床), クリニック

★現在の透析患者さんはおよそ何例おられますか?

全体約 () 人 HD 約 () 人 PD 約 () 人

★年間の新規の透析導入患者さんはおよそ何例おられますか? 約 () 人

★新規導入患者さんや他施設で導入され紹介された患者さんに腎移植の説明をされていますか?

・説明している事が多い ほとんど説明していない

ケースバイケースである (質問を受けたら 年齢による 合併症による)

その他 ()

・説明する時の使用資料はありますか?

冊子「腎不全の治療選択」 施設独自のツール メーカーのツール その他 ()

・誰が行っていますか? 医師 看護師 技士 その他 ()

・いつ行っていますか? 導入前 導入時 導入後 転院時 その他 ()

・誰に行っていますか? 患者 家族 その他 ()

・患者さんの年齢により説明内容をかえていますか? はい いいえ

★今までに腎移植した方はいますか?

はい (およその数 人), いいえ

はいの場合, 腎移植の種類がわかれば教えてください 生体腎移植 () 人 献腎移植 () 人

★献腎登録している患者さんは何例おられますか? 約 () 人

★献腎登録を中止した患者さんは何例おられますか?

約 () 人, 理由 ()

★腎移植後に透析再導入になり透析している患者さんは何名おられますか? () 人

★院内にドナーカードを設置されていますか? はい いいえ

★腎移植後の患者さんのフォロー (治療) をされていますか? はい いいえ

★フォローをされていない施設は貴院でのフォローを希望しますか? はい いいえ

★院内スタッフに対して定期的に腎移植の勉強会を行っていますか? はい いいえ

★院内での腎移植勉強会を必要とお考えですか? はい いいえ

(以下先生の腎移植に対する考え方を伺います)

★腎移植を患者さんに勧めますか? ○をつけて下さい

積極的にすすめる 希望時のみ 積極的でない 良く知らない

すすめる患者さんの年齢は何歳ぐらいまでをお考えですか? () 歳

★腎移植に賛成ですか? ○をつけて下さい

生体腎移植に 賛成 反対 どちらとも言えず

献腎 (心停止) 移植に 賛成 反対 どちらとも言えず

献腎 (脳死) 移植に 賛成 反対 どちらとも言えず

★腎移植の成績についてどう思いますか? ○をつけて下さい

かなり良い 良い 改善の余地 悪い 良く知らない

★献腎登録制度についてどう思いますか? ○をつけて下さい

現行でよい 改善の余地 良く知らない 反対

★献腎登録を患者さんに勧めますか? ○をつけて下さい

積極的にすすめる 希望時のみ 積極的でない 良く知らない

★糖尿病の症例の移植に賛成ですか? 賛成 反対 どちらとも言えず

★ABO 不適合腎移植に賛成ですか? 賛成 反対 どちらとも言えず

以上ですが, 腎移植に関してのご意見がございましたらご自由にご記入ください。

図 1 腎移植意識調査アンケート

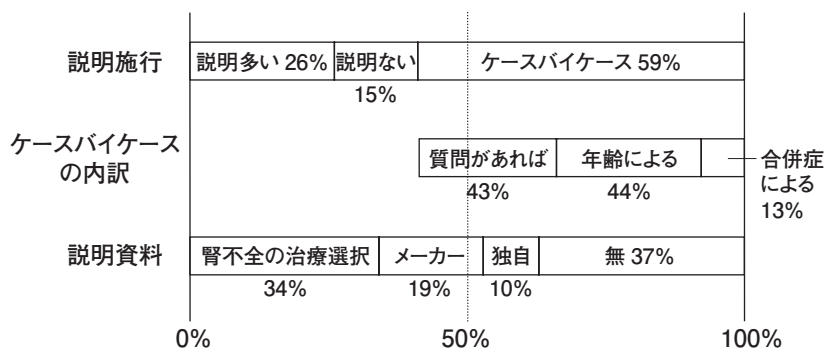


図2 移植の説明・資料に対する回答

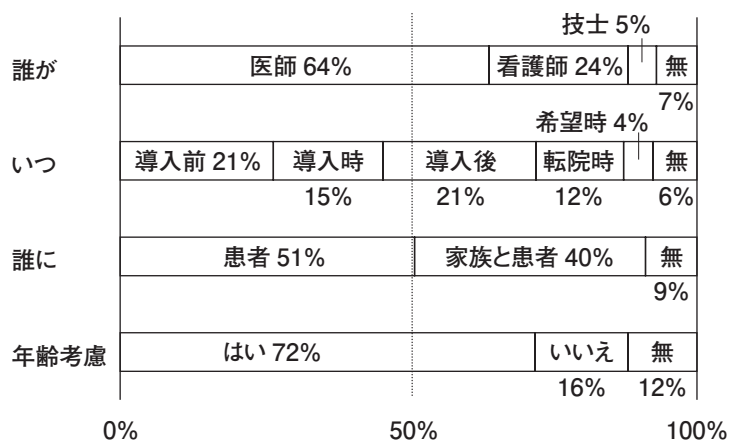


図3 移植の説明に対する回答

(重複回答あり)、「質問があれば」が43%、「年齢による」が44%、「合併症による」が13%であった。「腎移植の説明をすることが多い」施設の内訳は、57%が病院であり43%がクリニックであった。「ケースバイケースで説明する」と答えた施設の内訳は、42%が病院であり58%がクリニックであった。説明資料は、日本腎臓学会、日本透析医学会、日本移植学会、日本臨床腎移植学会が作成している「腎不全の治療選択」が34%、「メーカーのツール」が19%、「施設独自のツール」が10%、「資料無し」が37%であった。

図3に腎移植の説明に対する回答を示す。「説明を誰が行っているか」は、医師64%、看護師24%、技士5%であった。「説明時期」は「透析導入前」21%、「導入時」15%、「導入後」21%、「転院時」12%、「希望時」4%であった。「誰に説明しているか」は、「患者」51%、「家族と患者」40%であった。「年齢を考慮する」のは72%であった。

移植の現状に対する質問では、65施設(79%)で経験があり、移植患者数の合計は374人で1施設あたり平均5.8±3.5人、内訳は生体腎移植240人と献腎移植134人であった。献腎登録患者は61施設(74%)

に存在し合計378人であり、1施設あたり平均6.6±4.6人であった。献腎登録を中止した患者は55人であり、「医学的理由、面倒なため、高齢のため、移植腎が当たらない、透析のほうが良い」などが中止理由であった。腎移植後の透析再導入患者は93人であった。

図4に移植の取り組みに対する回答を示す。「ドナーカード設置」は40%、「腎移植後のフォローを実施している」施設は17%であり、「フォローをしていない施設のフォロー希望」は19%であった。院内スタッフに対して「定期的に腎移植の勉強会を行っている」のは13%であり、「腎移植勉強会を必要と感じている」施設は55%であった。

図5に腎移植に対する考え方の回答を示す。腎移植を患者に「積極的にすすめる」施設は26%であり、「希望時にすすめる」が72%、「消極的」が2%であった。「生体腎移植に賛成」は60%、「献腎(心停止)移植に賛成」は91%、「献腎(脳死)移植に賛成」は80%であった。腎移植を勧める患者年齢は、59.7±5.8歳までであった。

図6に移植の成績・制度に対する回答を示す。腎移植の成績は「かなり良い」が40%、「良い」が33%で

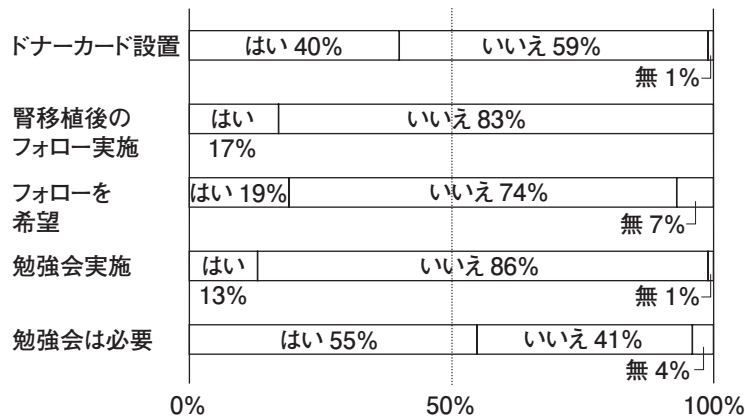


図4 移植の取り組みに対する回答

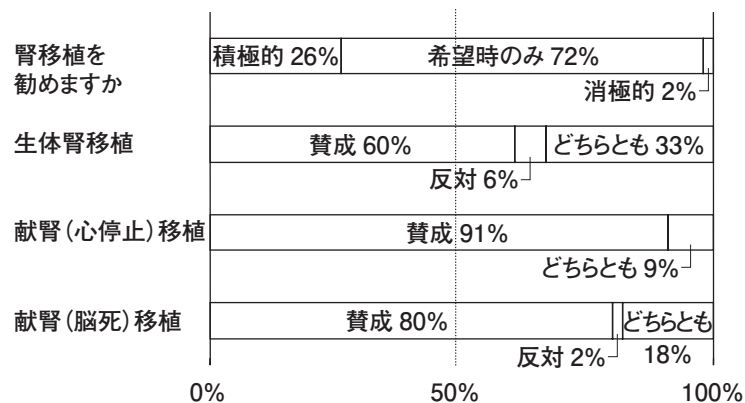


図5 腎移植に対する考え方の回答

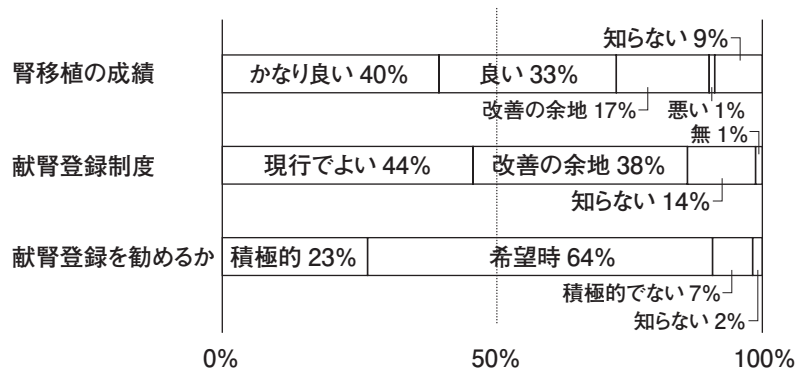


図6 移植の成績・制度に対する回答

あった。献腎登録制度については、「現行でよい」44%、「改善の余地あり」が38%であり、献腎登録を勧めるかは、「積極的」23%、「希望時」64%であった。

糖尿病移植に対する質問では、「賛成」が37%、「どちらとも言えず」が58%であり、ABO不適合移植に対しては、「賛成」が49%、「どちらとも言えず」が46%であった。

フリーコメントでは、「若い患者を優先させてほしい」「献腎登録更新は2年に1回にしてほしい」「社会に移植のシステムが根付いていない。献腎移植を増や

すべきだ」「ほとんどない移植の話をして患者に無理な希望をもたせるのはどうかと思う」「生体腎移植は望ましくない、将来2人の腎不全患者を作ってしまう」「患者を紹介するだけのため、透析スタッフの勉強会の体制はない」「根本的に臓器移植が受容できていません」などの意見が寄せられた。

3 考察

本邦では、腎移植治療は増加傾向にあるとはいえ、末期腎不全の治療選択肢として選ばれることが少ない

のが現状である。腎移植治療が進まない原因の一つに、透析医の腎移植に対する意識の問題が指摘されている²⁾。そこで兵庫県透析医会内の現状を把握する目的で、166施設に対して透析医の腎移植に対する意識のアンケート調査を施行した。

透析患者 6,996 人を管理している 82 施設（回収率 49%）から回答が得られた。回収率は、過去の同様のアンケート調査の報告では 13.8% から 56.3% であり³⁻⁵⁾、大きな差は認めていない。

腎移植に対して「積極的に説明している」、あるいは「積極的に勧めている」施設は 26% であった。腎移植の「説明をすることが多い」と答えた施設は、透析導入患者が多いと思われる病院と維持透析が中心となるクリニックの施設規模の違いには関係なかった。施設の規模よりも主治医の考え方が影響していると推察される。移植を勧める年齢は 60 歳までであった。「積極的に説明している」との結果は、32% から 45.6% との報告³⁻⁵⁾があり、今回のアンケート結果は移植に対して「積極的である」の回答比率が少ない結果であった。またこの 26% の数字は回収率 49% での結果であり、回答していない施設が腎移植に対して積極的でないとすると、「積極的である」のはより低い数字かもしれない。

60~70% の施設では、「質問を受けたら」「年齢により」「合併症により」などケースバイケースで腎移植の説明をしていた。この数字が、現時点での透析施設での移植への一般的な取り組みを表していると思われる。多くの透析医は腎移植の成績に対しては良好ととらえ、移植に対して賛成意見が多かった。しかし、治療の選択肢として腎移植を説明するのは「患者から

質問を受けた時」が多かったことを考えると、透析導入前のより早い時期の説明や定期的な移植治療の説明はされていないと思われる。実際に移植を受けた患者のアンケートの結果では^{6,7)}、患者は早期からの移植情報提供を希望しているが、十分な説明はされていないと報告されている。

今後、移植治療の発展普及のためには、透析スタッフは移植治療に対して知識や情報を習得し積極性が必要であると思われる⁸⁾。また移植スタッフは、透析スタッフや患者に教育・啓発を行うことが必要である。透析スタッフと移植スタッフの密な関係の構築が望まれる。

文 献

- 1) 日本臨床腎移植学会, 日本移植学会: 腎移植臨床登録集計報告 (2011)—1 2010 年実施症例の集計報告. 移植, 46: 313-318, 2011.
- 2) 柴垣有吾: 末期腎不全のオプション提示—特に腎移植の説明に関して—. 日腎会誌, 46: 347-359, 2004.
- 3) 政金生人: 透析医の立場から腎臓移植を考える. 移植, 41: 21-24, 2006.
- 4) 星井桜子: 腎移植に関する透析医の意識調査. 透析会誌, 34: 688, 2001.
- 5) 中野広文, 古賀祥嗣, 中元秀友, 他: 末期腎不全に対する腎代替療法の情報提供に関するアンケート調査. 日腎会誌, 48: 658-663, 2006.
- 6) 柴垣有吾, 東間 紘, 寺岡 慧: 腎移植における腎臓内科医・透析医の関与—腎移植患者のアンケート調査から—. 日腎会誌, 46: 20-25, 2004.
- 7) 星井桜子: 透析患者の腎移植に関する意識調査. 透析会誌, 36: 805, 2003.
- 8) 山川智之, 藤田 譲, 田部 茂, 他: 腎移植患者紹介施設としての関わり. 透析会誌, 38: 1269-1270, 2005.